柱になっている詩人

る。さらに山に入ると日本海側の いる。筆者は同氏とは特別の出会 兄に電話すると、浄禅寺に行き住 氏)は鶴岡の生まれではないが、 **らに山奥の田川という地区であ 圭に生まれた。藤沢周平が教師を の茨木のり子である。実は、紹介』** いる。また、哲学者の今道友信 」
くは高山樗牛、その後に丸谷才 海という温泉地に至る。藤沢周 学の道に進むことを方向づけて となど。この話題を鶴岡の実家の - は鶴岡生まれの作家であるが、 (、詳しくは鶴岡市関根という山 制中学の時代に暮らしたことが や渡部昇一など、著名な作家も ていた湯田川という温泉地より という範囲を超え、筆者の活動の 筆者は下段欄にあるように山形 ている。この10年間、鶴岡との関 た。鶴岡の産婦人科の三浦医院が 茨木のり子と鶴岡の関係を知っ 柱になっているとしても過言では わりとして紹介しているは、詩人 夫の生家で、加茂水族館がある加 HKラジオの「ラジオ深夜便」で、 力発見!」は茨木のり子としたい。 ない。したがって、今回の「地元 いまから10年前の3月17日、N 影響を受け、今日に至っことになり、初回(15年1月26日

**茨木のり子のイラスト(山本誠・画)** 

「洸楓座」代表

56」とある。これが、

その展示会に出かけて購 と面談した。世田谷文学館 あることを教えて頂いた。 に行き住職の西方信夫さん りFAXで送ってくれた。 職とも会い墓所の写真も撮 年4月19日~6月29日)が で茨木のり子展(2014 その後、筆者自身も加茂 入した図録の領収書

> 者の出会いとなった。 茨木のり子の詩作と筆り上げた。 そのコラムで筆者は、『倚りか

ティカ」の概念には強く ム『エネルギーの源』を連載する 択において、私たちは、未来に悔 いがあり、氏の「エコエ ある「新エネルギー新聞」にコラ 詩を引用し、\*…エネルギーの選 ジ」を寄稿した。連載コラムのテー 発行)に「茨木のり子のメッセー マは「いろは順」に書くと決めて取りすることを、自身の感受性や いたので、茨木のり子を初回に取 考えで選択すべし… と書いた。 エネルギーの業界紙で たしが一番きれいだったとき』の 翌年から、再生可能からず『自分の感受性くらい』わ 前例主義や従来方式に固執せず、 真に持続可能な方法を、未来を先 いを残してはならない。…"、"…

恒例となる イベントを開催でいる「茨木のり子六月

とにちなみ企画催行した。 鶴岡を本拠地として活動し

茂の浄禅寺が三浦家の菩提寺のこ ワーホール船堀で、「「倚りかから 木のり子―2020秋/怒るとき 茨木のり子の詩作を題材として」 年11月9日に東京都江戸川区の夕で、「コロナ禍浄化を求めて/茨 11月6日には「日本語を味わう― ず』 ― 茨木のり子の詩から知る平 と許すとき」を企画催行した。男 行っている。初回のイベントは19 渋谷区の東京ウイメンズホール 年からは恒例のイベントとして 翌年20年10月9日には、東京都 して主催した。この年が、学童疎 メッセージとして開催。21年12月 ニューから」を開催した。また、 和の大切さと友好のきずな―」と 女平等参画・男女共同社会への う―『茨木のり子の献立帖』のメ 茨木のり子の詩作の紹介は、19の会」には後援を得て行った。

の児童が鶴岡市に学童疎開したこ 会汐留ホールにて「茨木のり子 の日比谷文化図書館で「茨木のり

には、「2014/5 (16 (金) 16:

| 荘内日報| による地元への案内記事

アムいすみ」代表。 般財団法人「エコミュージ とともに日本各地の地域お 東京都立大院卒。元千葉大 社団法人「洸楓座」代表。 ラボで地域再生を図る地酒 カル鉄道と地元の酒蔵のコ の研究のほか、他分野の 大学院工学研究科准教授 柄を送り出している。一般 画、すでに10件を超える銘 「鐵の道」の製造・販売を企 こし活動に従事する。ロー テーマの研究開発に努める (金属疲労専攻)。 金属疲労 1950年山形生まれ。

開から75周年で、当時、江戸川区 22日には東京都港区の日仏文化協 22年11月23日には東京都千代田区 2021冬/ も茨木のり子を取り上げた。22年 を、11月17日には「防災食を味わ 子2022秋/対話」を企画開催

り楽しんで頂 けたようであ スの時期であ 末&クリスマ えて開催し、その詩情を社会に伝 歳月」として **企画開催。**年 えたい。 する「荘内日報」には関連の行事 子の作品を、朗読のほか音曲を交 告記事などとして地元に伝えて頂 した。23年度も継続して茨木のり において名義後援を得て、開催予 なお、鶴岡市や酒田市を地域と

野県軽井沢でいている。